

1 AはBだ

「AはBだ」の日本語パターンからまず英語にしてみよう。
では、最初はきわめて初歩的な問題から。

〈1〉

あなたが、「今日は疲れたよ」と言いたいとき、次のどちらを言うだろうか？

- (1) Today is tired.
- (2) I am tired today.

「～は」は、日本語の文法では、「副助詞」に分類されている。「格助詞」ではない。つまり、もともとは「**主語**」を表す助詞ではなくて、「**話題**」を表す助詞なのである。

この文でも「疲れた」に対する動作主(=主語)は、省略され、潜在している「わたし」なのであって、「今日」が疲労しているわけではない。「今日は疲れた」を「私は疲れた」と比べてみればわかる。「今日は疲れた」→「今日が疲れた」とは言い換えできないが、「私は疲れた」→「私が疲れた」とは言い換えが可能で、この2文が表す状況もほとんど変わらない。

対応する英語は、たとえば

I had to do a lot of work today, and I'm tired now.

になり、英語の主語は「I=わたし」にしなければならない。

《解答》

- (1) × (今日という日が疲労することはないから)

(2) ○

〈2〉

あなたに突然ロサンジェルス支店への転勤命令が下った。「その知らせはきのう聞いたばかりなんだ」とあなたが同僚に言いたいとき、次のどちらの言い方を選ぶだろうか？

- (1) I heard the news just yesterday.
- (2) The news was just what I heard yesterday.

「その知らせ」に「～は」がついている。しかし「この知らせ」を英文で主語の位置にもってきては、自然な英語にならない。この日本語に対応する英語は、

(1) I heard the news just yesterday. (○)

とか、または

I only heard the news yesterday. (○)

など、主語に人間(ここでは「わたし」)が来る文である。

もっとも、英米の大学で使われている「外国語としての日本語教本」の中には、もとの日本語から英語への直訳として、英米人学習者への文構造参照用として(!)、

The news is what I heard yesterday. (×)

とか

Speaking of the news, I heard it yesterday. (×)

という、非英語的な英文が載っていることもある。これは英米